

1 研究費補助金の実績

吸入麻酔薬の脊髄における鎮痛作用の解明	波江智恵子	麻酔科	1,000	補委 文部科学省科学研究費基盤研究(C)
悪性脳腫瘍に対するTargeting thero-mo-chemotherapy	宇塚岳夫	脳神経外科	600	補委 文部科学省科学研究費萌芽研究
機能解剖学的解析による脳内てんかん原生ネットワークの解明とその診断手技の確立	大石 誠	脳神経外科	2,100	補委 文部科学省科学研究費基盤研究(C)
未解明遺伝性脊髄小脳変性症の臨床・分子遺伝学的解析	原 賢寿	神経内科	1,400	補委 文部科学省科学研究費基盤研究(B)
3テスラMRI/MRSを用いた多発性硬化症患者の脳白質・皮質の非侵襲的機能評価	寺島建史	神経内科	1,200	補委 文部科学省科学研究費若手研究(B)
進行性核上性麻痺PSPの発病に関連する17q21.31領域の遺伝子因子の解明	高野弘基	神経内科	1,400	補委 文部科学省科学研究費基盤研究(C)
アプラタキシン欠失による一本鎖核酸損傷修復障害と神経変性の関連についての解析	五十嵐修一	神経内科	2,200	補委 文部科学省科学研究費基盤研究(C)
糸球体上皮細胞に発現する新規メタロプロテアーゼ分子の機能解析	井口清太郎	地域医療教育支援コアステーション	1,900	補委 文部科学省科学研究費萌芽研究
感染・炎症における生体の恒常性維持に関する新概念の確立	中田 光	生命科学医療センター	1,700	補委 文部科学省科学研究費萌芽研究
歯原性角化嚢胞モデルとしてのMsx2ノックアウトマウスの顎骨嚢胞	鈴木 誠	病理検査室	2,000	補委 文部科学省科学研究費萌芽研究
心筋炎、拡張型心筋症におけるHMG-CoA阻害薬、スタチンの有用性について	伊藤正洋	救急部	800	補委 文部科学省科学研究費若手研究(B)
治験担当者のニーズに細かに対応できる多施設共同治験管理システムの開発	鳥谷部真一	医療情報部	6,000	補委 文部科学省科学研究費基盤研究(B)

1 研究費補助金の実績

特発性肺胞蛋白症において抗サイトカイン自己抗体はなぜ増加するのか？	中田 光	生命科学医療センター	15,600	補委 文部科学省科学研究費基盤研究 (B)
波長分散型X線マイクロアナライザーと免疫組織化学を用いた間質性肺炎の病理学的検討	鈴木榮一	医科総合診療部	700	補委 文部科学省科学研究費基盤研究 (C)
肺癌の根絶可能な同種移植片拒絶反応を応用した新規治療法の開発	吉澤弘久	生命科学医療センター	800	補委 文部科学省科学研究費基盤研究 (C)
血小板機能の制御ー血小板シグナル伝達異常症の病因解析からのアプローチ	布施一郎	生命科学医療センター	1,300	補委 文部科学省科学研究費基盤研究 (C)
骨髄不全患者で検出された新たな抗原蛋白の造血障害発症メカニズムとの関連性の解析	古川達雄	高密度無菌治療部	2,200	補委 文部科学省科学研究費基盤研究 (C)
小細胞肺癌患者に誘導された免疫寛容打破を目的とした画期的抗腫瘍免疫療法の開発	各務 博	生命科学医療センター	2,200	補委 文部科学省科学研究費基盤研究 (C)

1 研究費補助金の実績

研 究 課 題	研究者名	所 属 部 門	金 額	補 助 元 又 委 託 元
ゲノムワイド関連解析を応用した歯周病感受性遺伝子検索システムの確立	小林哲夫	歯科総合診療部	千円 900	補 文部省科学研究費基盤研究委 (C)
生体親和性修復材料開発のための天然歯隣接面の生理的摩耗と咬合力に関する研究	石崎裕子	歯科総合診療部	1,000	補 文部省科学研究費若手研究委 (B)
歯根膜をモデルとした細胞の感圧機構(メカノレセプター)に関する検索	魚島勝美	歯科総合診療部	2,100	補 文部省科学研究費基盤研究委 (B)
T細胞-抗原提示細胞の多様な相互作用が歯周病の病態を決定するか?	中島貴子	歯科総合診療	1,100	補 文部省科学研究費基盤研究委 (C)
成熟途上にある幼若永久歯における非侵襲的う蝕診断システムの確立	佐久間汐子	予防歯科診療室	500	補 文部省科学研究費基盤研究委 (C)
レーザー照射後の象牙質・歯髄複合体の修復再生過程の免疫組織化学的解析	重谷佳見	歯の診療室	1,300	補 文部省科学研究費若手研究委 (B)
ニッケルチタンファイルの切削特性-安全性・追従性の高い根管下部形成法の提示-	富田文仁	歯の診療室	1,900	補 文部省科学研究費若手研究委 (B)
口唇口蓋裂発生メカニズムとp53遺伝子依存性アポトーシスの先駆的研究	児玉泰光	顎顔面外科診療室	2,000	補 文部省科学研究費若手研究委 (B)
FcγRIIa遺伝子多型のサイトカイン産生への影響と歯周疾患について	山本幸司	歯周病診療室	1,900	補 文部省科学研究費若手研究委 (B)
齲蝕病巣に生ずる蛍光像の齲蝕診断法への応用に関する研究	岡本 明	歯の診療室	900	補 文部省科学研究費基盤研究委 (C)
唾液中フェニトイン濃度を用いた薬物性歯肉増殖症の発症機構に関する研究	佐野富子	小児歯科診療室	500	補 文部省科学研究費若手研究委 (B)
全身的骨粗鬆症と歯槽骨骨梁構造変化との関連性	田中みか子	義歯(入れ歯診療室)	1,000	補 文部省科学研究費基盤研究委 (C)
外科的矯正治療による心理・精神面と表情との変化の関連性に関する研究	寺田員人	特殊歯科総合治療部	500	補 文部省科学研究費基盤研究委 (C)

1 研究費補助金の実績

咀嚼・嚥下機能に関わる脳幹内介在神経の局在とその機能的役割に関する研究	井上 誠	摂食・嚥下機能回復部	1,300	補委	文部省科学研究費基盤研究(C)
凍結保存歯の歯周組織は再生するか	泉 直也	口腔再建外科診療室	800	補委	文部省科学研究費若手研究(B)
顎関節症者の下顎頭骨形態変化の発症機構を下顎運動論と咬合論から解明する	細貝 暁子	義歯(入れ歯診療室)	600	補委	文部省科学研究費若手研究(B)
顔面頭蓋の形態異常を伴うCL/Fr系マウスの顎関節の組織学的及び分子生物学的検討	安島久雄	顎顔面外科診療室	1,300	補委	文部省科学研究費若手研究(B)
歯根膜線維芽細胞におけるGDF-5の特異的機能とシグナル伝達機構の解明	飯沢二葉子	小児歯科診療室	1,500	補委	文部省科学研究費若手研究(B)
顎顔面非対称例におけるデザインパターンの設計と臨床応用	越知佳奈子	矯正歯科診療室	1,000	補委	文部省科学研究費若手研究(B)
歯の形態形成におけるステロイド受容体の役割ーステロイド療法の歯への作用機序解明ー	河野承子	小児歯科診療室	1,000	補委	文部省科学研究費若手研究(B)
抑制性T細胞の機能亢進による歯周疾患免疫療法の基礎研究	伊藤晴江	歯周病診療室	1,600	補委	文部省科学研究費若手研究(B)
歯周炎における可溶性TNF受容体の解析	島田 靖子	歯周病診療室	1,300	補委	文部省科学研究費若手研究(B)
下顎骨延長術の治療期間を短縮する	小林正治	口腔再建外科診療室	1,300	補委	文部省科学研究費基礎研究(C)
MMP-1遺伝子多型2Gアリルは口腔癌発症のリスクを増加させる	星名秀行	口腔再建外科診療	1,900	補委	文部省科学研究費基礎研究(C)
自家および他家移植実験を応用した歯髄分化能の解明	大島邦子	小児歯科診療室	2,400	補委	文部省科学研究費基礎研究(C)
高齢者の口腔疾患より構築する潜在的な精神疾患のスクリーニングシステムに関する研究	高野尚子	予防歯科診療室	700	補委	文部省科学研究費若手研究(B)

1 研究費補助金の実績

エストロゲンによる骨芽細胞の新たな調節機構—ギャップ結合に与える影響を解明する—	澤田 美穂	矯正歯科診療室	1,100	補委	文部省科学研究費若手研究(B)
骨粗鬆症における下顎頭骨変化—咀嚼による機械的応用が骨構造に与える影響の解明—	渡邊 直子	矯正歯科診療室	1,100	補委	文部省科学研究費若手研究(B)
細菌生死判定技術の確立とその応用	福田 敬	歯の診療室	600	補委	文部省科学研究費若手研究(B)
骨格性下顎骨偏位症の下顎運動に随伴する頭部運動, 身体動揺と全身機能の関連の解明	山田 一尋	矯正歯科診療室	300	補委	文部省科学研究費基礎研究(C)
顎関節内障患者の顎関節はあそびが大きい	荒井 良明	顎関節治療部	700	補委	文部省科学研究費若手研究(B)
ネットワークを活用した顎関節症、咀嚼・嚥下障害患者の総合的診断支援システム構築	櫻井 直樹	義歯(入れ歯診療室)	2,100	補委	日本学術振興会科研費基礎(B)
顎骨欠損部の骨再生を促進させる	小野由紀子	口腔再建外科診療室	600	補委	文部省科学研究費若手研究(B)
歯科心身症で発症する身体症状への心理的因子の関与の立証とその定量的測定の試み	田中 裕	歯科麻酔科診療室	2,800	補委	文部省科学研究費若手研究(B)
開鼻声と構音障害の消失過程における音響特性の定量的評価	寺尾恵美子	言語治療室	200	補委	文部省科学研究費若手研究(B)
抗インシュリン作用改善に対する抗菌的歯周治療の長期有用性に関する無作為化比較試験	小川 祐司	予防歯科診療室	500	補委	文部省科学研究費若手研究(B)
高齢者の口腔乾燥と歯周病進行の関連に関する研究	廣富 敏伸	地域保健医療推進部	600	補委	文部省科学研究費若手研究(B)

計11

合計81

- (注) 1 国, 地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け, 当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち, 高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は, 1つの研究について研究者が複数いる場合には, 主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は, 補助の場合は「補」に, 委託の場合は「委」に, ○印をつけた上で, 補助元又は委託元を記入すること。

2 論文発表の実績

雑 誌 名	題 名	発表者氏名	所属部門
日本アフェレシ ス学会雑誌. 200 6;25:210-216.	末梢動脈疾患に対する細胞治療に おける工夫、末梢単核球移植追加治 療とエリスロポエチン併用治療につ いて	加藤公則 他	第一内科
J Mol Cell Car diol. 2006;40:6 29-638	Erythroid cells play essential role s in angiogenesis by bone marrow cell implantation	Ozawa T, Toba K 他	第一内科
J Jpn Coll Angi ol. 2006;46:595 -601	Mechanism that underlie the angi ogenesis by bone marrow implant ation, and an application of eryth ropoietin for angiogenic therapy.	Kato K, Toba K, 他	第一内科
The Journal of L mmunology	Hydridynuc-Based Delivery of amcnt eleukin-22-1g Fusiun Gene Amelioraf es Exprimenfal Autoimmune Myocarait is in Rats	Haruo Han awa	第一内科
Rheumatology I nternational 2 006;26;1147-53 (平成18年10 月)	Outcome of patients with reactiv e amyloidosis associated with rh eumatoid arthritis in dialysis t reatment	Kuroda T akeshi (黒田 毅) 他	第二内科
Hypertens Res. 2 007 Mar;30(3):27 9-83. (平成19年3 月)	Leiomyosarcoma of the abdominal aorta: a rare cause of renovascular hy pertension	Iguchi S 他	第二内科
Exp Lung Res. 2 007 Mar;33(2):81 -97. (平成19年3 月)	ST2 gene induced by type 2 helper T cell (Th2) and proinflammatory cytotki ne stimuli may modulate lung injury and fibrosis lung injury and fibrosi s.	Tajima S, 他	第二内科
Am J Respir Crit Care Med. 2007 Jul 1;176 (1):70 -7. Epub 2 007 Mar 15. (平成19年3 月)	Two-dimensional analysis of elements and mononuclear cells in hard metal lung disease.	Moriyama H,他	第二内科
J Periodontol. 20 07Mar;78(3):467- 74 (平成19年3 月)	The combined genotypes of stimulator y and inhibitory Fc gamma receptors associated with systemic lupus erythe matosus and periodontitis in Japanese adults	Kobayash i T	第二内科

2 論文発表の実績

Intern Med. 2007 ;46(4):163-9. Epub 2007 Feb 15. (平成19年3月)	Isolation and immunophenotyping of mononuclear cells from human lung tissue	Shimizu T, 他	第二内科
Antiviral Res. 2007 Jul;75(1):75-82. Epub 2006 Dec 14. (平成19年12月)	Drug-resistant HIV-1 prevalence in patients newly diagnosed with HIV/AIDS in Japan.	Gatanaga H, 他	第二内科
Retrovirology. 2006 Dec 2;3:88. (平成19年12月)	Human T-cell leukemia virus type 2 Tax protein induces interleukin 2-independent growth in a T-cell line.	Kondo R, 他	第二内科
Lung. 2006 Nov-Dec;184(6):318-23. Epub 2006 Nov 3. (平成19年11月)	Preventive effect of Hochu-ekki-to on lipopolysaccharide-induced acute lung injury in BALB/c mice	Tajima S, 他	第二内科
J Hum Genet. 2007;52(1):66-72. Epub 2006 Oct 24. (平成19年10月)	ADAM33 polymorphisms are associated with aspirin-intolerant asthma in the Japanese population	Sakagami T, 他	第二内科
Kidney Int. 2006 Dec;70(11):1948-54. Epub 2006 Oct 11. (平成19年10月)	Expression of allograft inflammatory factor-1 in kidneys: A novel molecular component of podocyte	Tsubata Y, 他	第二内科
Rheumatol Int. 2006 Oct;26(12):147-53. Epub 2006 Sep 5. (平成19年9月)	Outcome of patients with reactive amyloidosis associated with rheumatoid arthritis in dialysis treatment	Kuroda T, 他	第二内科
Ther Apher Dial. 2006 Aug;10(4):316-20. (平成19年8月)	Current clinical aspects of dialysis-related amyloidosis in chronic dialysis patients	Saito A, 他	第二内科
Rheumatol Int. 2006 Nov;27(1):103-7. Epub 2006 Jul 8. (平成19年7月)	A case of Takayasu arteritis complicated with glomerulonephropathy mimicking membranoproliferative glomerulonephritis: a case report and review of the literature:	Kuroda T, 他	第二内科

2 論文発表の実績

Clin Exp Nephro 1. 2006 Jun;10(2) :136-9. Review. (平成19年6月).	Nephrotic syndrome and IgA nephrop thy in polycystic kidney disease.	Hiura T, 他	第二内科
Ther Apher Dial. 2006 Jun;10(3): 262-6. (平成19年6月)	Circulating osteoprotegerin affects b one metabolism in dialysis patients w ith mild secondary hyperparathyroidis m	Kazama J J,他	第二内科
Intern Med. 2006 ;45(9):615-9.Epu b 2006 Jun 1 (平成19年6月)	Analysis of the effect of surgical lung biopsy on serum KL-6 Levels in patie nts with interstitialpneumonia: surgica l lung biopsy does not elevate serum KL-6 levels	Narita J, 他	第二内科
Nat Med. 2006 J un;12(6):693-8. Epub 2006 May 7(平成19年5月)	Eradication of established tumors in mice by a combination antibody-based therapy	Uno T, 他	第二内科
Kidney Int. 2006 May;69(9):1626 -32.(平成19年5 月)	Etiology and prognostic significance of severe uremic pruritus in chronic h emodialysis patients	Narita I, 他	第二内科
Nephrol Dial Tra nsplant. 2006 Se p;21(9):2589-95. Epub 2006 Apr 2 7. (平成19年4 月)	Immunohistochemical evidence of acti vated lectin pathway in kidney allogr afts with peritubular capillary C4d de position.	Imai N,	第二内科
Kidney Int. 2006 May;69(10):179 2-8. (平成19年5 月)	Turbulence of glomerular hemodynam ics involved in progressive glomerulo sclerosis	Kawamur a K,	第二内科
Clin Rheumatol. 2006 Jul;25(4):4 98-505. Epub 20 05 Nov 3. (平成19年7月)	Long-term mortality outcome in patie nts with reactive amyloidosis associat ed with rheumatoid arthritis.	Kuroda T, 他	第二内科
Japanese Jotirnal of 7 (2) : 36 - 38 Helicobacter Research 2006	H. pylori感染における鉄収抑制ホルモン hePcidinの生産についての検討	佐藤祐 一、成深 林太郎	第三内科

2 論文発表の実績

Hepato - Gasroenterol 53 : 110 - 114 2006	Common clinicopathological Features of the Patients with Chronic Hepatitis B Virus Infection	Yasunori Tsuboi,	第三内科
Hepato - Gasroenterol 53 : 124-127 2006	Absence of Pre-treatment Markers that Predict the Emergence of YMDD Mutants during Lamivudine Treatment	M Yano , 他	第三内科
消化器の臨床9(2) :140-147 2006	EMRとESD施行にあたって一歩技の実際とコツ 食堂におけるEMR/ESD	竹内学他	第三内科
肝胆膵 52(4) :563-570 2006	PBC病態における自然免疫の関与	山際訓他	第三内科
臨床消化器内科 21(8) :1197-1202 2006	比較的若年の女性に起こった原因不明静脈閉塞症の1例	埜孝泰他	第三内科
Internal Medicine 45 :309-311 2006	A Primary Follicular Lymphoma of the Duodenum Treated Successfully with Radiation Therapy	Masaaki Takamura, 他	第三内科
新潟県医師会報 No. 679 2006	細胞周期調節因子1d-1/p27を指標にした肝硬変患者の発癌リスク予測診断システムの確立	松田康伸	第三内科
新潟医学会雑誌別冊 120(9) :518-5 2006	ムチンコア蛋白発現、p53蛋白過剰発現からみた大腸粘液癌の検討	丹羽恵子	第三内科
Journal of Hepatology 45 :254-262 2006	Increase of CD4 + CD25 + regulatory T cells in the Liver of patients with hepatocellular Carcinoma	Xiu Hua Yang, 他	第三内科
The Journal of Gene 8 : 623 - 635 Medicine 2006	Attenuation of mouse acute colitis by naked hepatocyte growth factor gene transfer into the liver	Takaya suHana wa , 他	第三内科
新潟医学会雑誌 120(10) :569-576 2006	蕨出 (sprouting/budding) の大腸sm癌リンパ節転移危険因子としての意義に関する免疫組織学的検討	橋本哲他	第三内科
Oncogene 1-10 2007	Multi - step Lymphomagenesis deduced from DNA changes in thymic lymphomas and atrophic thymuses at various times after γ -irradiation	H Ohi, 他	第三内科

2 論文発表の実績

Oncogene 1-1 1 2007	Lack of Bcl 1b tumor supPessor results in vulnembility to DNA mplication stress and damages	K Kamimura, 他	第三内科
Biochemical and Biophysic al Research Communicati ons 355 : 538 - 542 2007	Haploinsufficiency of Bcl 1 b for suppressio n Of Lymphomagenesis and thymocyte deve lopment	Kenya Kamim ura, 他	第三内科
Dlg Dis S ci 52 : 995 - 1000 2007	Collagenous Gastritis : Endoscopic and Pat hologic Evaluation of the Nodularity of Gas tric Mucosa	Kenya Kamim ura, 他	第三内科
Life Scienes 80 : 1335 - 1 344 2007	An inhibitor of c-Jun NH2-terminal kinase, SP600125,. protects mice from D-galactosa mine/lipopolysaccharide-induced hepatic fa ilure by modulating BH3-only proteins	MasaakiTak amura ,他	第三内科
Internal Med icine 46 : 367 - 371 20 07	Decompensated Lamivudine - resistant Hep atitis B Virusrelated Cirrrhosisfully with Adefovir Dipivoxil Allowing Surgery for He patocellular Caminoma	MasaakiTak amura ,他	第三内科
Journal of H epatology 47 :404-411	Altemd expssion of TLR homolog RP105 on monocytes hypersnsitive to LPS in Patient s with primary bliary cirrhosis	Yutaka Hond a, 他	第三内科
内科99(6) :11 56-1 166 200 7	肝胆降領域の悪性腫瘍ではかゆみが初発症状 となることがある	山際 訓 他	第三内科
Psychiatry Cli n Neurosci (平成18年4 月)	Clinical features and treatment outcome in Japa nese patients with social anxiety disorder: Chart review study	Shindo M, Sh ioiri T, Kuwa bara H, et al	精神科
J Affect Disor d (平成18年4 月)	Differences in characteristics between suicide vi ctims who left notes or not.	Kuwabara H, Shioiri T, Ni shimura A, et al.	精神科
Acta Psychiatr Scand (平成 18年6月)	Parietal white matter abnormalities in obsessive -compulsive disorder: A magnetic resonance spe ctroscopy study at 3-Tesla	Kitamura H, Shioiri T, Ki mura T, et al	精神科

2 論文発表の実績

Pharmacogenomics J (平成18年5月)	The effect of 5-hydroxytryptamine 3A and 3B T receptor genes on nausea induced by paroxetine	Sugai T, Suzuki Y, Sawamura K, et al.	精神科
BMC Public Health (平成18年5月)	Impaired psychological recovery in the elderly after the Niigata-Chuetsu Earthquake in Japan: A population-based study	Toyabe SI, Shioiri T, Kuwabara H, et al	精神科
Psychiatry Clin Neurosci (平成18年5月)	Association study of a functional promoter polymorphism of the X-box binding protein 1 gene in Japanese patients with schizophrenia	Watanabe Y, Fukui N, Muratake T, et al	精神科
Psychiatry Clin Neurosci (平成18年4月)	Attention-deficit/hyperactivity disorder and dissociative disorder among abused children.	Endo T, Sugiyama T, Someya T	精神科
Pharmacogenomics J (平成18年5月)	The effect of 5-hydroxytryptamine 3A and 3B receptor genes on nausea induced by paroxetine	Sugai T, Suzuki Y, Sawamura K, et al	精神科
Neuropsychopharmacology (平成18年4月)	Polymorphisms in the 5-hydroxytryptamine 2A receptor and CytochromeP4502D6 genes synergistically predict fluvoxamine-induced side effects in Japanese depressed patients	Suzuki Y, Sawamura K, Someya T	精神科
Prog Neuropsychopharmacol Biol Psychiatry (平成18年8月)	Gender differences in prolactin elevation induced by olanzapine in Japanese drug-naive schizophrenic patients	Sawamura K, Suzuki Y, Fukui N, et al	精神科
手術60 (2) 2006.	潰瘍性大腸炎に対する小開腹大腸全摘術	飯合恒夫	第一外科
臨床外科61 (13) : 1595 - 1599, 2006	直腸癌に対する低位前方切除術後の縫合不全の治療	飯合恒夫	第一外科
カレントセラピー24(6) : 541-544, 2006	潰瘍性大腸炎の外科的治療	飯合恒夫	第一外科
Surgery Frontier13(2) : 137-150, 2006.	門脈内抗原移入後の肝の免疫応答	佐藤好信	第一外科

2 論文発表の実績

Surg Today36 (4):354-60, 2006.	Management of major portosystemic shunting in small-for-size adult living-related donor liver transplantation with a left-	佐藤好信	第一外科
Virchows Arch. 2007;451:691-9.	Establishment of novel human dedifferentiated Establishment of novel human dedifferentiated chondrosarcoma cell line with osteoblastic differentiation	Kudo N, Ogose A 他	整形外科
Cancer Genet Cytogenet. 2007 15;176:156-60	Ossifying fibromyxoid tumor of soft parts with clonal chromosomal aberrations	Kawashima H, Ogose A 他	整形外科
脊柱変形 2006;21:88-92	神経線維腫症に合併した胸髄膜瘤により胸水貯留を呈した1例	佐藤剛、平野徹 他	整形外科
脊柱変形 2006;21:93-99	神経線維腫症1型に伴う脊柱変形に対する手術療法の検討	平野徹、佐藤剛 他	整形外科
Spine 2007;32:550-554.	Evaluation of postoperative residual spinal deformity and patient outcome in idiopathic scoliosis patients in Japan using the scoliosis research society outcomes instrument.	Kei Watanabe, Kazuhiro Hasegawa 他	整形外科
Biomaterials 2006; 27: 1542-1549	Histological assessment in grafts of highly purified beta-tricalcium phosphate (OSferion®) in human bones	Ogose A 他	整形外科
中部リウマチ 2006; 37: 94-95	関節リウマチの人工股関節，膝関節手術時における下肢静脈エコーを用いた深部静脈血栓予防のスクリーニング	荒井勝光 他	整形外科
整形外科 2007; 58: 457-462	人工関節置換術後のDVT予防プロトコールの有用性 一下肢静脈エコー・可溶性フィブリン値を参考にし-	山際 浩史 他	整形外科
Evidence-based spine surgery 2007; 3: 9	Clinical notes. Unilateral cervical facet dislocation	Ito, T.	整形外科
Journal of pediatric Surgery	reatment of a case with right-sided diaphragmatic hernia associated with an abnormal vessel communication between the retriated liver and the right lung.	Tanaka S Kubota M	小児外科

2 論文発表の実績

Acta Paediatr (平成18年4月)	Seasonality in the incidence of biliary atresia in Japan.	Nakamizo M, 他	小児外科
Pathol Int(平成18年10月)	Absence of human herpesvirus-8 and Epstein-Barr virus in inflammatory myofibroblastic tumor with anaplastic large cell lymphoma kinase fusion gene	amamoto H, 他	小児外科
Acta Med Biol (平成18年12月)	Peripheral CD5+B cells reflect regional immunity of the liver in pediatric cholestatic diseases	numa Y, Kubota M, 他	小児外科
医薬の門. 研究会記録, 特別号2006 春多 46:60-61(20064)	リンパ球の分化成熟と悪性リンパ腫分類	伊藤雅章	皮膚科
皮膚科学: DERMATOLOGY, 片山一朗, 土田哲也, 橋本隆盾江増隆, 渡辺晋一編集や文光堂, 東京, 701-707(2006.4)	皮膚結核および皮膚非結核性抗酸菌症	伊藤雅章	皮膚科
J Invest Dermatol, 126:1052-1058(2006.5)	NKG2D ligation without T cell receptor engagement triggers both cytotoxicity and Cytokine production in dendritic epidermal T cells	Nitahara A, 他	皮膚科
第48回全国美容師大会テキスト, 日本美容医学研究会刊(2006)	アトピー性皮膚炎とは	伊藤雅章	皮膚科
皮膚診療のコツと落とし穴: ④ 治療, 西岡清編, 中山書店, 東京, 2-3頁(2006.6)	インフォームド・コンセント患者が理解できる用語を使った診療	伊藤薫	皮膚科
Skin Cancer, 21(1):101-104(2006.6)	リンパ節転移を認めた悪性末梢神経鞘腫の1例	荻谷直之他	皮膚科
新潟市医師会報, 423号:2-5(2006.6)	皮膚科からみた口腔粘膜疾患	伊藤雅章	皮膚科

2 論文発表の実績

臨床皮膚科, 60 (7): 554 - 557 (2006.6)	エトレチナート内服が有効であった皮膚硬化型慢性GVHDの小児例	田中英一郎 他	皮膚科
JUST HEALTH, 8号: 22頁 (2006.8)	健康トラブルQ & A: ストレスがないのに突然「円形脱毛症になった	伊藤雅章	皮膚科
Br J Dermatol, 155 (6): 437 - 445 (2006.7)	Male New Zealand Black / KN mice: a novel model for autoimmune-induced permanent alopecia?	Hiroi A, 他	皮膚科
Visual Dermatology, 5 (7): 672 - 674 (2006.7)	多毛 (多嚢胞性卵巣症候群)	橋本剛 他	皮膚科
Eur J Dermatol, 16 (4): 420 - 422 (2006.9)	Severe gastrointestinal involvement in paraneoplastic pemphigus	Miida H, 他	皮膚科
medicina, 43 (10): 1648 - 1651 (2006.10)	毛でわかる内科疾患 多毛、脱毛、毛の形態	渡辺力夫	皮膚科
第69回日本皮膚科学会東京支部学術大会記念誌, 109 - 115 (2006, 12)	皮膚悪性リンパ腫に対する分子標的療法の現状	河井一浩	皮膚科
日皮会誌, 116 (13): 1926 - 1932 (2006.12)	皮膚悪性リンパ腫の病期分類の問題点と予後解析	河井一浩	皮膚科
臨床皮膚科, 61 (3): 286 - 295 (2007.3)	AD Forum アトピー性皮膚炎の経時的推移に関するアンケート調査研究	古江増隆 他	皮膚科
腎と透析 Vol. 60 No.5 835-840 2006.5	透析患者の合併症とその対策 腎癌	若月俊二・高橋公太	泌尿器科
腎移植・血管外科 Vol. 17 No. 2 100-108 2006	導入療法: 脾摘を行わないABO血液型不適合腎移植	斉藤和英 他	泌尿器科